

リーダーシップについて

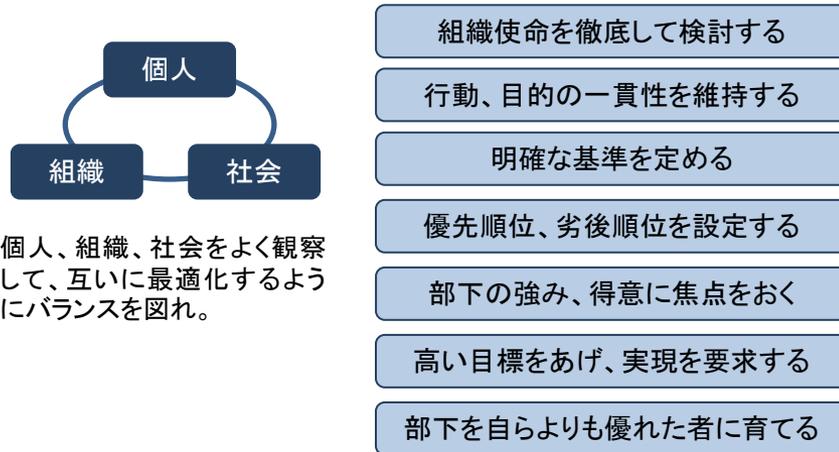
リーダーは信頼されていなければならない。信頼されて、従ってくる者たちがいて、リーダーになる。間違いのないリーダーの定義である。

リーダーの第一の役割は、「マネジメントの役割 その原則」で挙げられた3つを忘れてはならない。組織使命を徹底して考え、具体的な仕事の形にしてあらわさなければならない。人材のパワーを十分に発揮させなければならない。

リーダーシップは、資質ではない、人を惹きつけることでもない。人と組織と社会を確認して、現在と未来において最適化を図り、実現させる者である。

社会に対して、自らをもって、革新にコミットする者である。

リーダーの役割



個人、組織、社会をよく観察して、互いに最適化するようにバランスを図れ。

リーダーシップは仕事である。

誰もが身につけられる知識であり、実践できる。

成果をあげ続けようとする者である。

部下に何かできるかを問え。どれほどに出来るかを問え。そして、それ以上を要求する。

相互に信頼していなければならない。まず、部下、仲間を信頼するところから始める。よく知らなければならない。何ができて何をしようとしているのかを理解しておこう。時間をとって、じっくり話すようにしよう。

自分たちが真に求められている事柄をよく考えておこう。

仕事を完結させるのは当然である。すれば良いのではない。結果を受け取った者にとって、結果が機能して当然である。

リーダーは様々な場面で判断を下さなければならない。その判断に前例はほとんどない。前例に従ったとしたら不安を残す結果になる。前例は前例であって、今から起こりえる事柄とイコールにはならないからだ。

前例を学ぶのは良い。しかし、如何に優れた前例であっても未来を創るのではないと知っていなければならない。

実態は何か。本質は何かを考え抜かねばならない。

社会に見えた一つ、自らの一つのカテゴリーで、社会への最適化は図れない。それが実態であったとしても、一つでは偏狭である。

自らの実態は何か。持てるモノは何か、使えるモノはどれほどあるか。持てるモノは枯欠しないか、補充、または転換ができるか。

外に見えているモノは全体か。極小過ぎないか。未来を見ているのか。今だけしか見えていないのか。見えているモノの逆はないのか。見えているモノはいつまであるのか。それらを無くしてしまう要素はあるのか。

人材に不足するものはないか。他の産業との関わりは何か。

顧客、市場、持てるモノの用途について、考え抜いたか。

そして、問いなおす。実態は何か、本質は何か。

正解であると主張する解が存在していたとしても、その解は、過去の解である。

リーダーが考え抜き、自らが求めた解が最適になるとしななければならない。リーダーとしての信頼がそこにある。

リーダーは、正解を探してはならない。最適を考える。完璧を目指す。そのために自問する。最適となる問いを考える。未来は誰にも分からない。だから、解ではなく、問いなのだ。これこそ未来に向かうリーダーである。